

中年女性の体型に関する意識と服装コーディネートとの関係

石原 久代・大澤香奈子・小町谷寿子

Awareness of Body Style in Middle Age Women and Coordinating Accouterment

Hisayo ISHIHARA, Kanako OHSAWA and Hisako KOMACHIYA

緒 言

我々は、被服を選択する際、好きか嫌いかの判断だけでなく、自己の体型や顔面、年齢などの要因を複合的に考えて購入している。この自己の体型に関する意識¹⁾は、被服を購入する際の選択要因としてのみならず、特に外出時などの服装のコーディネートにも大きく関わってくると考えられる。

そこで筆者らは、先の研究²⁾にて若い女性の体型に関する満足度や身体意識が服装コーディネートにどのように影響しているかについて検討した。その結果、服装の色、柄、デザインと体型の視覚的評価との関係を着装者自身が勝手に判断し、その思い込みにより服装のコーディネートが行われていることが判明した。

本報では、若い女性に比べ、体型変化の著しい中年女性を取り上げ³⁾、現在の体型に対する自己認知および満足度を測定するとともに、体型に関わる諸因子と服装コーディネートとをどのように関連付けているかについて検討を行った。

これらの実態を正確に把握することは、消費者に対する被服教育の中でこれまでのように単に服装のコーディネートを提案するだけでなく、体型との関係を正しく理解できるコーディネート方法の提案を目指すために非常に意義深いことである。

方 法

1. 調査対象者

調査対象者は、40歳代、50歳代の女性102名である。年齢の内訳は、40～44歳10名、45～49歳55名、50～54歳28名、55～59歳9名で、平均は49歳であった。

2. 調査項目

調査項目は中年女性の体型に関する意識と服装デザインとの関係を検討するために、体型意識と着装に関する項目と、中年女性の装いとして適・不適判断に係る服装要因に関する項目を取り上げた。

1) 中年女性の体型意識と着装に関する項目：調査対象者の現在の身長、理想的と思われる

A. ストレートライン B. Xライン C. トラペーズライン D. テントライン E. トライアングュラーライン F. プリンセスライン G. スリムライン



図1 提示シルエット

身長, 体重, バスト寸法, ウエスト寸法, ヒップ寸法, 現在の体型についての満足・不満足度, 不満足な身体部位, 不満足点に対して留意している着装方法などについて回答させた。

2) 中年女性の装いとして適・不適判断に係る服装要因に関する項目: 中年女性の服装要因にどのような意識をもっているかについて検討するために, 中年女性にふさわしいと思う色・柄・シルエット, ふさわしくないと思う色・柄・シルエットについて回答させた。色彩についての選択色はPCCS(日本色彩研究所配色体系)における色相・明度・彩度について均等に選出した71色(表4参照)⁴⁾とした。

提示方法はこれら71色について縦1.5cm×横2.0cmの大きさに切断した色票をN6.5のグレーの台紙に貼付したカラーチャートを提示して選択させた。柄については, 太い縦縞, 細い縦縞, 太い横縞, 細い横縞, 大きなチェック, 小さなチェック, 幾何学模様, 大きな花柄, 小花柄, 大きな水玉, 小さな水玉, ペーズリーの12柄から選択させ, シルエットについては図1に示したような7シルエットの図を提示して選択させた。

3. 調査方法

調査は上記にあげた33項目について留置きによる質問紙調査法にて行った。得られた結果について単純集計の後, クロス集計等を用いて解析し, さらにクロス集計についてはピアソンの χ^2 乗検定を用いて有意差検定を行った。なお, 調査期間は平成15年3月から6月である。

結果および考察

1. 中年女性の体型意識と着装

今回の調査対象者102名について, 理想的な体型における身長, 体重, バスト, ウエスト, ヒップのサイズの平均値を図2に示した。さらに, 比較のために先の研究における若年女性の理想値も同様にレーダーチャートにして併記した。

中年女性, 若年女性の両グラフとも, 人間生活工学研究センターにおける日本人の人体計測データベース1992~1994年の平均値を基準として作成した。なお, 若年女性は19歳女子平均を, 中年女性は40歳代女子の平均を採用し, 破線で示した。両図におけるグラフスケールは各年齢における標準偏差に基づいて作成した。中年女性, 若年女性ともに実線は被験者の理想値の平均を示した。

今回の被験者が理想とする体型の平均は, 身長161cm, 体重50.2kg, バスト84.5cm, ウエスト61.3cm, ヒップ87.5cmであった。若年女性が理想とした身長161cm, 体重46.4kg, バスト84.1cm, ウエスト58.4cm, ヒップ83.9cmと比較すると, 身長とバストについては数値の上では両者にほとんど差がみられなかった。しかし, 中年女性の身長については, 40歳代女子の

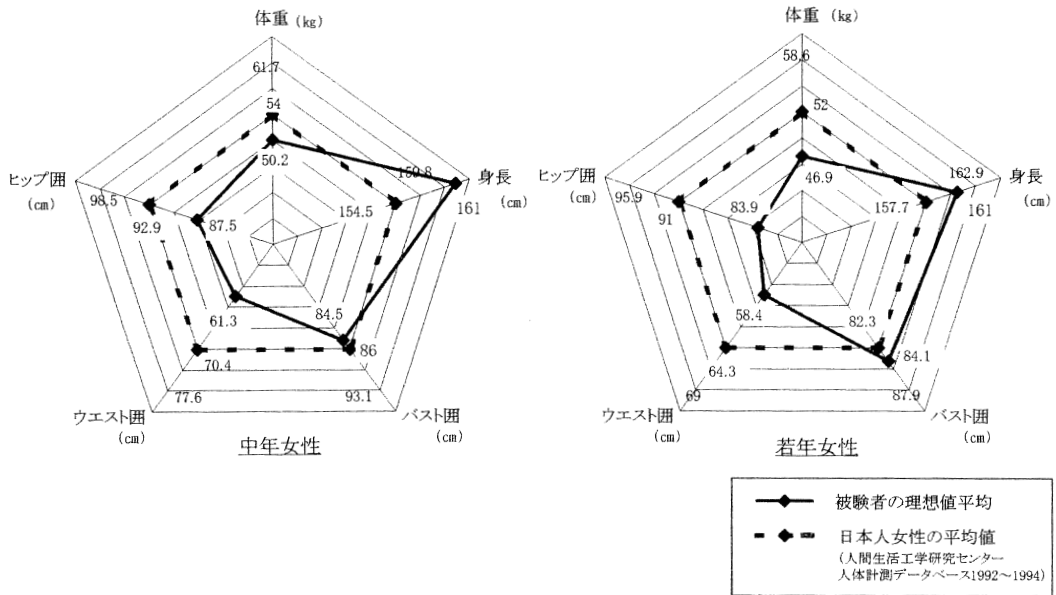


図2 理想的な体型における身体寸法

平均身長が154.5cmであることから、理想値と平均値との差が大きく、現在の身長への満足度が低いものと推察される。バストについては、若年女性と中年女性の理想値そのものにはほとんど差がないが、若年女性の理想値は19歳女子の平均値よりもプラスであるのに対し、中年女性では理想値が実際の平均値よりもマイナスとなっており、現在大きなバストが好まれる風潮がある中で中年女性についてはその願望は少ないといえる。なお、中年女性の理想値は若年女性の理想値に比べ、体重はプラス3.8kg、ウエストではプラス2.9cm、ヒップではプラス3.6cmとかなり大きな差がみられるが、理想値であるにも拘わらずこれらの数値があげられたことは、加齢による体型変化分を加味した上で値を決定していると推察される。また、実際の測定値との関係からみると若年女性の方は、ウエストよりもヒップに大きく瘦身願望が見られるが、中年女性では逆にヒップよりもウエストにおいて瘦身願望が見られるという結果であった。

被験者の現在の体型に対する満足度については、「非常に不満足」が39.8%、「やや不満足」

が41.6%であり、両者を合わせると81.4%にも上っている。これらの不満足に対する項目を図3に示した。不満足項目で顕著なものとして、「太っている」51%、「腹が出ている」54%の2項目があげられ、被験者の半数以上を数えている。次いで、「背が低い」、「ウエストが太い」、「足が太い」、「腕が太い」と続いている。

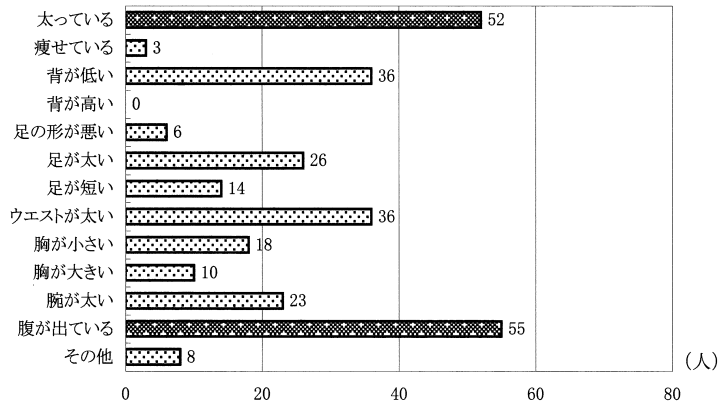


図3 現在の体型における不満足項目

これらの不満足項目と年齢との間に相関はみられず、40代前半においても50代後半においても同じような不満足項目があげられており、「背が低い」を除いては太さ項目がほとんどであり、満足度の低さがうかがえる。

不満足な項目として上位にあがった「背が低い」について、被験者の現在の身長との関係を検討するために、体型に対する満足度とクロス集計した結果を表1に示した。両項目についてピアソンの χ 二乗検定を行ったところ、区分において有意な差は見られず、身長の低い人が必ずしも身長に対して不満足という訳ではなく、さらに高い人が満足という訳ではないことが判明した。

次に、体型と着装との関係を検討するために、不満足項目で最も上位に挙げられた「腹が出ている」について、着装上自分自身が留意していることを自由記述により回答させた結果を表2に示した。表中の数値は度数を表している。最も多くあげられた留意点は、「お腹周りが隠れる上衣を着る」であり、次いで「ゆったりした上衣を着る」、「長めの上衣を着用する」、「上衣を外に出す」等の意見が多く、色、柄、デザインといった被服本体の要因ではなく、着装上の留意点があげられている。また「補正下着（ガードル）を着用する」といった意見も多くあげられており、隠す工夫がなされているといえる。

次いで不満足項目の2位に挙げられた「太っている」に対する留意点を表3に示した。最も多く挙げられた留意点は「色の濃いものを選ぶ」であり、他に色に関する項目として「痩せて見える色を着る」、「膨張色でないものを着る」なども挙げられ、全体的に色彩についての意見が多く、回答の約半数にのぼっている。その他の留意点では、複数の被験者が回答した「体のラ

表1 現在の身長と体型に対する満足度のクロス表及び Pearson の χ 二乗検定

		現在の身長 (cm)						合計	
		145未満	145~150	150~155	155~160	160~165	165~170		
満足度	まあまあ満足	度数		2	4	10	3	19	
		総和の%		1.96	3.92	9.80	2.94	18.63	
	やや不満足	度数		7	16	16	10	1	50
		総和の%		6.86	15.69	15.69	9.80	0.98	49.02
	非常に不満足	度数	1	10	9	8	5		33
		総和の%	0.98	9.80	8.82	7.84	4.90		32.35
合計	度数	1	19	29	34	18	1	102	
	総和の%	0.98	18.63	28.43	33.33	17.65	0.98	100	
Pearson の χ 二乗		値		自由度		漸近有意確率 (両側)			
		10.67		10		0.38			

表2 不満足項目「腹が出ている」に対する着装上の留意点

度数 (人)	留意点	度数 (人)	留意点
7	お腹周りが隠れる上衣を着る	1	シンプルなデザインを選ぶ
4	ゆったりした上衣を着る	1	フィットする服を着ない
4	長めの上衣を着用する	1	スリムなデザインを着ない
4	上衣を外に出す	1	ギャザースカートを選ばない
2	目立たないように隠す	1	ワンピースは控える
2	上着を着る	3	ウエストにゆとりのあるものを選ぶ
2	上衣の丈に気を付ける	1	サイズのあったパンツを選ぶ
1	短めの上衣を着る	6	補正下着 (ガードル) を着用する
1	体のラインを隠す	2	黒、紺を基調にする

表3 不満足項目「太っている」に対する着装上の留意点

度数 (人)	色に関する留意点	度数 (人)	その他の留意点
7	色の濃いものを選ぶ	6	体のラインが出ないようにする
3	痩せて見える色を着る	3	細く見えるようにする
3	膨張色でないものを選ぶ	3	全体のシルエットを縦長にする
2	黒を基調にする	2	サイズに気をつける
2	淡い色を着ない	1	程よくフィットしたものを着る
1	鮮やかな色を着る	1	バランスよく着る
1	パンツは黒, 上衣に明るい色を着る	1	くび周りの開いているものを選ぶ
1	パンツの色を選ぶ	1	ストレッチ素材を避ける
1	上下バランスの良い色使いをする	1	下着を選ぶ

インが出ないようにする」といった意見をはじめ、「細く見えるようにする」、「全体のシルエットを縦長にする」などシルエットに関する項目が挙げられている。また、「くび周りの開いているものを選ぶ」、「ストレッチ素材を避ける」など、デザイン、素材の各要素についての意見も若干みられる。これらの意見は先にあげた「腹が出ている」に対して「隠す」という着装方法を用いていることと異なり、多くの意見が視覚的な瘦身効果を期待した意見であると理解できる。

2. 中年女性の装いとして適・不適判断に係る要因

色, 柄, デザインなどの要素が体型の視覚的評価にどのように関与すると理解しているかについて検討するために, 中年女性の装いとして色, 柄, デザイン別に適・不適判断および, 太って見える, 痩せて見えるについて回答させ, 検討を行った。

まず, 中年女性の装いとしてふさわしいと考える色彩およびふさわしくない色彩, 太って見える色彩, 痩せて見える色彩についてトプス, ボトムスに分けて回答させた結果を表4に示した。太って見える色彩についてかなりばらついているが, トプスで最も出現数の多いのは, p4(うすい赤みの橙)で13名, 次いでp6(うすい黄みの橙), W(白), lt4(明るい赤みの橙), lt8(明るい黄)と続いている。ボトムスでは, トプスに比べて若干集中しているが, 白が最も多く19名, 次いでp4, p6, p24, p2と続いている。これらの色彩の多くはp(パール)トーン, lt(ライト)トーンであり, 「暖色系の色」, 「高明度の色」が太って見える要素と理解されているといえる。逆に, 痩せて見える色彩は集中しており, トプスでBk(黒)が63名(61%)と非常に多く, 次いでdp18(こい青)の10名, dk20(暗い青紫)の7名と続いている。さらにボトムスでは, 黒が80名(78%)と圧倒的に多くの人に選択されている。

また, 中年女性のトプスにふさわしい色彩は, ばらついて出現しており, 71色中50色が挙げられており, 最も出現数の多い色彩でも5名を数えるのみであった。ふさわしくない色彩では, トプスでv2(あざやかな赤)が11名, 次いでv4(あざやかな赤みの橙), ボトムスでも同じくv2, v4の赤系統の高彩度色や白が挙げられた。トプス, ボトムス間に大きな傾向の違いは見られないが, 白はボトムスにおいて, よりふさわしくないとの結果となった。この結果から不満足項目に対する着装の留意点として「色の濃いものを選ぶ」, 「痩せて見える色を着る」等が挙げられていたが, ボトムスにおいてこの点をより考慮した装いがなされることがうかがえる。また, これは「太っている」あるいは「腹が出ている」などの個人的な体型意識に左右されない共通のイメージであることも判明した。

これらの色彩と体型に対する満足度においてクロス集計した結果を表5に示した。さらに χ

表4 中年女性が評価する色 (頻度)

色 (PCCS 色名)		太って見える		痩せて見える		ふさわしい		ふさわしくない			
トーンと色相記号	系統色名	トップス	ボトムス	トップス	ボトムス	トップス	ボトムス	トップス	ボトムス		
V	v2	あざやかな赤	5	4	0	0	3	2	11	13	
	v4	あざやかな赤みの橙	3	3	0	0	3	0	8	13	
	v6	あざやかな黄みの橙	4	0	0	0	5	0	1	2	
	v8	あざやかな黄	4	4	0	0	0	0	3	6	
	v10	あざやかな黄緑	0	0	0	0	0	0	1	1	
	v12	あざやかな緑	0	0	0	1	2	1	1	1	
	v14	あざやかな青緑	0	0	0	1	2	1	1	1	
	v16	あざやかな緑みの青	0	0	0	0	0	0	0	0	
	v18	あざやかな青	0	0	4	1	3	0	0	2	
	v20	あざやかな青紫	0	0	1	0	1	0	1	1	
	v22	あざやかな紫	0	0	0	0	2	0	1	1	
	v24	あざやかな赤紫	2	1	0	0	3	0	3	6	
	lt	lt2	明るい赤	4	4	0	0	4	0	2	3
		lt4	明るい赤みの橙	7	3	0	0	1	0	1	3
lt6		明るい黄みの橙	6	4	0	0	0	0	1	0	
lt8		明るい黄	7	4	0	0	1	1	1	0	
lt10		明るい黄緑	1	0	0	0	4	0	1	1	
lt12		明るい緑	1	0	0	0	0	0	1	3	
lt14		明るい黄緑	0	0	0	0	3	0	0	0	
lt16		明るい緑みの青	0	0	0	1	5	0	0	1	
lt18		明るい青	0	0	1	0	1	1	0	0	
lt20		明るい青紫	0	0	0	0	3	0	0	0	
lt22		明るい紫	0	0	0	0	3	0	0	0	
lt24		明るい赤紫	4	1	0	0	2	1	2	4	
d		d2	くすんだ赤	1	1	0	0	1	0	1	1
		d4	くすんだ赤みの橙	0	0	0	0	3	0	0	0
	d6	くすんだ黄みの橙	0	0	0	0	2	2	0	0	
	d8	くすんだ黄	0	1	0	1	0	1	4	0	
	d10	くすんだ黄緑	0	0	0	0	3	1	0	0	
	d12	くすんだ緑	0	0	0	0	1	0	0	0	
	d14	くすんだ青緑	0	0	0	0	0	0	0	0	
	d16	くすんだ緑みの青	0	0	0	0	0	0	0	0	
	d18	くすんだ青	0	0	0	0	1	1	0	0	
	d20	くすんだ青紫	0	0	0	0	1	0	1	0	
	d22	くすんだ紫	0	1	0	0	0	1	0	0	
	d24	くすんだ赤紫	0	1	0	0	3	0	0	0	
	dp	dp2	こい赤	1	1	0	0	5	1	2	1
		dp4	こい赤みの橙	0	1	0	0	0	2	1	1
dp6		こい黄みの橙	0	0	1	0	1	8	3	2	
dp8		こい黄	1	0	0	0	1	5	1	2	
dp10		こい黄緑	0	0	0	0	0	0	0	0	
dp12		こい緑	0	0	1	0	1	0	0	0	
dp14		こい青緑	0	0	1	1	0	2	1	0	
dp16		こい緑みの青	0	0	0	0	0	1	1	0	
dp18		こい青	1	0	10	6	0	7	2	0	
dp20		こい青紫	0	0	3	0	1	0	0	0	
dp22		こい紫	0	0	1	0	0	0	1	0	
dp24		こい赤紫	0	1	0	0	3	0	2	0	
p		p2	うすい赤	5	6	0	0	2	0	3	3
		p4	うすい赤みの橙	13	11	0	0	2	0	0	3
	p6	うすい黄みの橙	9	9	0	0	1	1	3	0	
	p8	うすい黄	3	5	0	0	2	0	2	2	
	p10	うすい黄緑	1	2	0	0	1	1	0	0	
	p12	うすい緑	2	2	0	0	2	0	1	1	
	p14	うすい青緑	0	0	0	0	2	2	2	1	
	p16	うすい緑みの青	0	0	0	0	1	3	1	1	
	p18	うすい青	0	0	0	0	0	2	1	0	
	p20	うすい青紫	0	0	0	0	1	0	2	3	
	p22	うすい紫	0	0	0	0	1	1	1	0	
	p24	うすい赤紫	5	7	0	0	2	2	4	0	
	dk	dk4	暗い赤みの橙	0	0	1	2	1	3	3	0
		dk8	暗い黄	0	0	1	0	2	4	1	0
dk12		暗い緑	0	0	0	0	1	2	2	0	
dk16		暗い緑みの青	1	0	0	1	0	3	4	0	
dk20		暗い青紫	0	0	7	5	0	5	2	1	
dk24		暗い赤紫	1	0	5	2	0	5	0	2	
w	w	白	9	19	0	0	0	1	3	11	
	Gy7.5	明るい灰色	0	4	0	0	1	3	0	1	
Gy	Gy5.5	中位の灰色	0	1	0	0	1	2	1	0	
	Gy3.5	暗い灰色	0	0	1	0	0	7	4	0	
Bk	Bk	黒	0	0	63	80	2	17	1	1	

表5 体型に対する満足度と痩せて見える上衣の色のクロス表及び Pearson の χ^2 二乗検定

		痩せて見える上衣の色						合計
		鮮やかな寒色	薄い寒色	濃い暖色	濃い寒色	グレイ	黒	
満足度	まあまあ満足	度数	3	1		2	13	19
		総和の%	2.94	0.98		1.96	12.75	18.63
	やや不満足	度数	1		3	12	1	33
		総和の%	0.98		2.94	11.76	0.98	32.35
	非常に不満足	度数	1		7	7		17
		総和の%	0.98		6.86	6.86		16.67
合 計		度数	5	1	10	21	1	63
		総和の%	4.90	0.98	9.80	20.59	0.98	61.76
								102
								(内欠損値1)
								100
Pearson の χ^2 二乗検定		値				漸近有意確率 (両側)		
		22.24				0.03		
			自由度					
			12					

二乗検定を行ったところ、痩せて見えるトップスの色と、体型に対する満足度間に有意な差が見られた。検定は提示した71色を対象に、有彩色は明度を3段階に、色相を暖色と寒色の2段階の6グループに分け、無彩色は白、黒、グレーの3グループの計9グループに分けて行った。全体では黒が強く支持されているが、クロス表から有彩色は満足度の低い被験者に選択されていることがうかがえる。また有彩色は寒色の方が多く選ばれ、「まあまあ満足」と答えた被験者19名のうち、3名があざやかな寒色、2名が濃い寒色、1名が薄い寒色を選択し、選ばれた有彩色は全て寒色となった。一方の暖色については、あざやかな暖色はどの被験者からも全く支持されなかった。

次に、柄について「太って見える柄」、「痩せて見える柄」、「ふさわしい柄」、「ふさわしくない柄」の結果を図4に示した。まず、「太って見える柄」では太い横縞が56%と最も高く、半数以上を占め、次いで太い縦縞が10%、大きな花柄、細い横縞、大きなチェック、大きな水玉と続いており、これらは大きな柄に集中しており、さらに小さい柄で入っているのは横縞のみで、太って見える柄の因子として「大きな柄」、「横縞」が挙げられる。逆に「痩せて見える柄」では細い縦縞が57%と最も高く半数以上を占め、次いで太い縦縞が12%、細い横縞、幾何学模様順となっており、痩せて見える柄の因子として「縦縞」、「細い縞」が挙げられる。太い縦縞が「太って見える柄」、「痩せて見える柄」の双方で2位に挙がっている点は、因子が複合的に絡み合っていることから理論のみで捉えられており、実際の柄と見え方の関係が把握されていないといえる。

中年女性に「ふさわしい柄」としては、幾何学模様、小花柄、ペーヅリー、小さな水玉が挙げられたが、これらの柄はいずれも「太って見える」、「痩せて見える」の評価と繋がっていない。逆に、「ふさわしくない柄」として挙げたのは、太い横縞、大きな水玉、大きな花柄で、「太って見える」柄で1位に挙げられた太い横縞を含めて、太って見える柄とふさわしくないと思う柄とが一致する傾向にあることが判明した。

被験者の年齢と「痩せて見える柄」および「太って見える柄」についてクロス集計した結果「痩せて見える柄」について有意な差がみられたので表6に示した。クロス表から、40歳代の方が色々な柄を痩せて見える柄と選択していることが分かる。「太って見える柄」について有意な差は見られなかったものの、40歳代の方が色々な柄を選ぶ点については同傾向にあった。

シルエットについて、「太って見えるシルエット」、「痩せて見えるシルエット」、「ふさわしいシルエット」、「ふさわしくないシルエット」の結果を図5に示した。「太って見えるシ

エット」ではテントラインが57%と最も多く、次いでトラペーズライン、トライアングュラーラインの順に挙がっており、体のラインが出にくい身体から離れたシルエットが上位を占めている。逆に、「痩せて見えるシルエット」ではXライン、スリムライン、プリンセスライン、ストレートラインでほぼ4極化となり、いずれもある程度フィット感の保たれたシルエットといえる。

中年女性に「ふさわしいと考えるシルエット」は、その5割を痩せて見えると評価されたストレートライン、プリンセスライン、Xライン、スリムラインの4シルエットが占め、残り5割は太って見えると評価されたシルエットが占める結果となった。「ふさわしくないシルエット」の双方において、上位にあがったのは、太って見えるシルエットとして評価されたものと、痩せて見ると評価されたものとなり、シルエットについては、明確に痩身性の要因と結びついていないことが判明した。

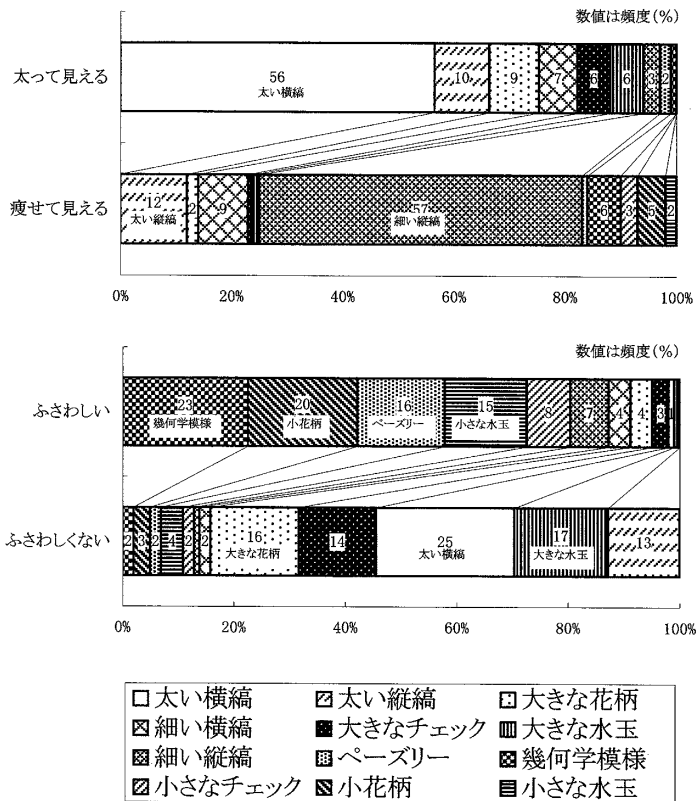


図4 中年女性が評価する柄

表6 年齢と痩せて見える柄のクロス表及び Pearson のχ二乗検定

		痩せて見える柄										合計			
		太い縦縞	細い縦縞	細い横縞	大きなチェック	小さなチェック	幾何学模様	大きな花柄	小さな花柄	大きな水玉	小さな水玉		ペーズリー		
年齢	40～44歳	度数	2	2				1	1			1	1		10
		総和の%	1.96	1.96				0.98	0.98			0.98	0.98		9.80
	45～49歳	度数	8	28	8	1	2	1	1	4				1	55
		総和の%	7.84	27.45	7.84	0.98	1.96	0.98	0.98	3.92				0.98	53.92
50～54歳	度数	1	21	1			4						1	28	
	総和の%	0.98	20.59	0.98			3.92						0.98	27.45	
55～59歳	度数	1	7			1								9	
	総和の%	0.98	6.86			0.98								8.82	
合計	度数	12	58	9	1	3	6	2	4	1	2	1	102		
	総和の%	11.76	56.86	8.82	0.98	2.94	5.88	1.96	3.92	0.98	1.96	0.98	100		
Pearson のχ二乗		値													
		57.65											36		
		自由度													
		漸近有意確率 (両側)											0.01		

しかし、表7にクロス集計した結果を示したように「痩せて見えるシルエット」については、体型の自己認知において「太っている」と答えた被験者間に有意な差が見られた。「太っている」と答えなかった被験者ではスリムライン、ストレートラインが強く支持されているのに対して、「太っている」と答えた被験者では、この二つのシルエットの支持が下がり、Xラインとプリンセスラインの支持が増加している。特にプリンセスラインへの評価の変化が顕著にみられた。

以上のように中年女性は「太っている」ことに対して不満を持っている人が非常に多いものの、「痩せて見える」に繋がる色、柄、シルエットの要素として、色彩については概ね理解されているが、柄については、柄と見え方との関係が十分に把握されておらず、シルエットについては明確に瘦身性の要因と結びついていなかった。しかし、満足度と痩せて見える色、年齢と痩せて見える柄、および体型の自己認知と痩せて見えるシルエットにはそれぞれ有意な差が見られ、身体意識と瘦身効果を意識した装いととの繋がりが示唆された。今後の着装情報の提供にあたっては、体型との関係を正しく理解できるコーディネート方法を幅広く行っていくことの必要性を見出すに至った。

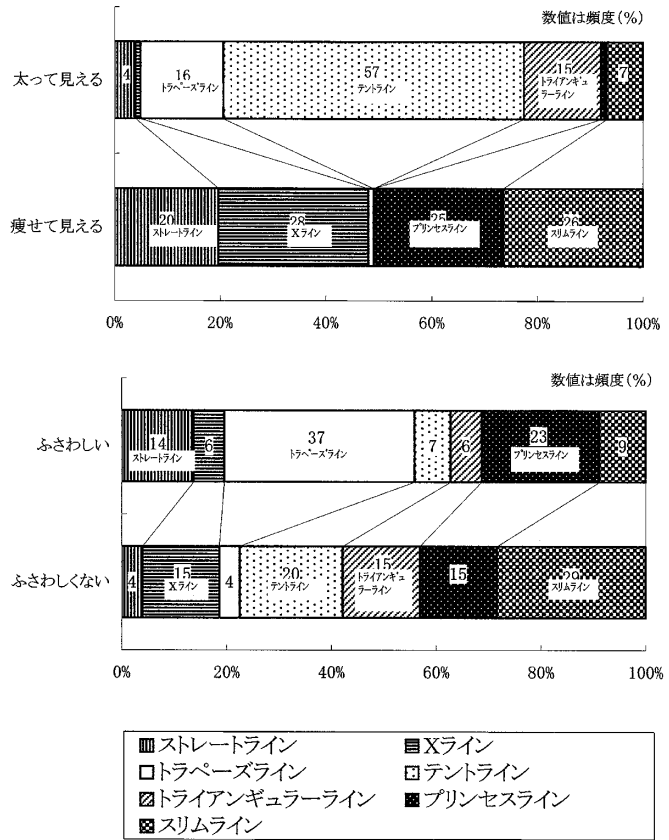


図5 中年女性が評価するシルエット

表7 体型に対する自己認知と痩せて見えるシルエットのクロス表及び Pearson の χ^2 二乗検定

		痩せて見えるシルエット					合計	
		ストレートライン	Xライン	トラペーズライン	プリンセスライン	スリムライン		
自己認知	「太っている」の認知なし	度数	13	12		7	18	50
		総和の%	12.7	11.8		6.9	17.6	49.0
	「太っている」の認知あり	度数	7	17	1	18	9	52
		総和の%	6.9	16.7	1.0	17.6	8.8	51.0
合計	度数	20	29	1	25	27	102	
	総和の%	19.6	28.4	1.0	24.5	26.5	100	
Pearson の χ^2 二乗		値	自由度		漸近有意確率 (両側)			
		11.47	4		0.02			

要 約

中年女性の現在の体型に対する自己認知および満足度を測定するとともに、体型に関わる諸因子と服装コーディネートをどのように関連付けているかについて40・50歳代の女性102名を被験者として、調査を行った結果、中年女性も体型に対する満足度は低く、特に加齢によって体型変化する腹部において否定的な意識が強く表れていた。体型の不満足点に対しては着装によってカバーしようとする姿勢がうかがえ、その中にも痩身効果を期待するものと隠そうとする観点からのものがあることが判明した。中年女性がふさわしいと評価する装いは、色は特にボトムスにおいて黒や低明度色に集中し、柄は幾何学模様や小花柄、シルエットはトラペーズライン、プリンセスラインとなった。色については痩身性の要因と結びついた着装がボトムスにおいては概ねなされているが、柄については、見え方との関係が十分に把握されていない。また、シルエットについては明確に痩身性の要因と結びついていなかった。しかし、満足度と痩せて見える色、年齢と痩せて見える柄、および体型の自己認知と痩せて見えるシルエットにはそれぞれ有意な差が見られ、身体意識と痩身効果を意識した装いと繋がりが見られた。

文 献

- 1) 牛田聡子他：身体像の評価に影響を及ぼす個人差要因，織消誌 41-11 59～69(2000)
- 2) 石原久代，大澤香奈子：若い女性の将来の身体像と被服観に関する一考察，名古屋女子大学紀要 家政・自然編，49,11～20(2003)
- 3) 辻啓子：50代の今後の衣生活に対する関心，家政誌 41-6 517～525(1990)
- 4) 加藤雪枝他：生活の色彩学，92～95 朝倉書店，(1990)